

舞鶴は豊かな自然の「フィールドミュージアム」

日本貝類学会会員
理学博士

あらき くにお
荒木 邦雄 さん

天然記念物である冠島をはじめ、海や山、河川などたくさんの豊かな自然に包まれた舞鶴市。そんな市内各所の生態系や地質、化石の調査をはじめ、子ども達への講演やフィールドワーク、ネイチャーガイドの養成など、自然・環境の分野で広く活躍されている荒木邦雄さんにお話を伺いました。



※フィリピンに生息する巨大な「ヤシガイ」の標本を持つ荒木さん

きつかけはひとつの貝殻

以前から貝殻を集めていたという荒木さんが、調査や研究の道へと進むきっかけとなったのは、新婚旅行で奄美大島へ訪れた際に見つけたひとつの貝殻でした。その貝の名前がどうしても分からず、日本貝類学会に問い合わせたことをきっかけに、当時日本海側に二人もいなかった学会員にならないかと誘われたことから、貝類の本格的な研究を始められました。

学会員として活動を始めてから9年後には学会で昭和天皇に御進講するなど、貝類の調査、研究に大きく貢献されてきました。

貝の調査のためにフィリピンを中心にアラスカ州(米国)やアフリカなど世界中を飛び回って集めた世界中の貴重な貝の標本は、京都大学総合博物館(京都市)に寄贈され、現在展示の準備が進められています。

貴重な自然を将来世代へ

貝類の調査、研究だけでなく、環境省や国土交通省、市などからさまざまな環境や生態系の調査を引き受ける中で、哺乳類、爬虫類、両生類、化石など自然環境全般に広く尽力され、本市においても環境基本計画の策定や有害鳥獣被害防止対策の検討など、多方面にご協力いただいている荒木さんに、舞鶴の中でも特に貴重だという自然環境を教えてくださいました。

一つは、赤岩山頂にある市内でも唯一という「杉の原生林」で、この杉のDNAを調べて、舞鶴の杉がどここの杉を起源にしているのかが分

ければ、山の成り立ちや周辺地域の歴史まで広く調べることができるとのことです。

もう一つは、岡田由里地区にある「さざなみの化石」。約2億4000万年前に浅い海だった頃の海底の水の流れの様子が化石となったもので、舞鶴のものは非常に大規模。どちらも天然記念物に指定されるべき貴重な資料だと、舞鶴に残る豊かな自然について説明していただきました。

自然と共に歩んでいくために

「舞鶴は自然が多い。いかに上手く利用するかが大切」と語る荒木さん。地域の豊かな自然全体を博物館に見立て「フィールドミュージアム」と呼んだり、一つの湿地帯のなかに多種多様な生態系が営まれている様子を「ウェットランド」と呼ぶなど、より親しみやすく、分かりやすい表現を用いるなど、知ってもらうための工夫を常に考えているとのこと。

また、「今までさまざまな講座やフィールドワークを通じて自然の面白さや大切さを伝えてきたが、小学生までを対象にしたものが多く、深く掘り下げた話をする機会が少なかった」と振り返り、「最近市内の学校でも生物部がどんどん減っている」と自然や生物への関心の低下を懸念されているそうです。今後は中学生・高校生に向けて、もっと深く環境について知ってもらい、考える機会を設けることで自然環境や生物に興味を持ってもらうだけでなく、美しい自然に包まれたこの舞鶴に住み続けようと思ってもらいたいと熱く思いを語ってくれました。



ヒメアオキ (ミズキ科)

見ごろ 11～3月頃

アオキの変種で北海道と本州の日本海側の多雪地に分布する常緑低木。下部からよく分枝する。幹は直立せず斜上し、葉はアオキに比べ小さい。4月頃、枝先に花序を出し、褐紫色の小さな四弁花をつける。冬から春先にかけて、冬枯れの林の中、葉の緑と赤い果実がよく目立つ。名前の由来は、四季を通じ葉・幹・枝が緑色をしており、アオキよりも全体が小型であることから。

また、火傷や切り傷には葉をあぶって貼り、健胃剤としても用いられた。雌雄異株。

【協力】瓜生勝朗 市文化財保護委員(植物分野)

まいづる花図鑑

vol. 114

